

# 令和5年度 第1回 鎌ヶ谷市地方創生総合戦略推進会議 会議録

○日時 令和5年10月13日（金）午後2時から

○場所 鎌ヶ谷市本庁舎6階 第1委員会室

○出席者

(1) 推進会議委員 ※敬称略

会 長：菅野 勝利（鎌ヶ谷市自治会連合協議会長）

副会長：徳田 訓康（鎌ヶ谷市社会福祉協議会長）

委 員：竹内 久子（千葉県女性防火クラブ連絡協議会長）

委 員：井手 勝則（鎌ヶ谷市商工会長）

委 員：吉田 英智（とうかつ中央農業協同組合鎌ヶ谷支店長）

委 員：河南 康広（千葉県東葛飾地域振興事務所長）

委 員：根本 恵美子（鎌ヶ谷市教育委員会委員）

(2) 鎌ヶ谷市職員出席者

狩谷総務企画部長、井上総務企画部参事、矢島市民生活部次長

今井健康福祉部副参事、横山都市建設部次長、三石生涯学習部副参事

佐藤消防本部次長

(3) 事務局

浅野総務企画部次長（事）企画財政課長、古田主査、波木井主査補

○記録 波木井

○傍聴者 なし

## 1 開会

## 2 自己紹介

## 3 議題

### (1) 会議録署名人の選出について

会議録署名人は、委員名簿順として、河南委員、根本委員に決定した。

### (2) 会議要旨説明

（菅野議長）

本推進会議設置要綱に関して2点ほど報告をさせていただきたいと思います。

1点目でございますが、本推進会議設置要綱第6条第1項の規定により、会長が会議の議長となるとありますので、不慣れではありますが議長の職を務めさせていただきたいと存じます。

それからもう1点でございますが、本推進会議設置要綱第6条第2項の規定により、

会議は、委員の過半数の出席がなければ開くことができないとあります。

本会議の委員の定足数は7人に対し委員7人全員の出席をいただいておりますので、本会議の出席者は過半数に達しておりますので、本会議は成立いたしましたことをご報告いたします。

それでは、本推進会議の要旨説明を行いたいと存じます。

本推進会議は、総合戦略の効果及び検証等を行うため、幅広い分野の関係者からご意見を聴くことを目的としております。

そして、この総合戦略の主な目的は、出生率の向上、人口の流入増、定住促進としており、少子高齢化に歯止めをかけ、人口減少や地域経済の縮小を克服しようとするものでございます。

鎌ヶ谷市の場合は、配布された資料にもございましたが、平成28年度から、転入者が転出者を上回っており、令和元年度に、11万人を達成したところでございます。

ただ、少子高齢化は、日本全体の課題となりますが、本市の出生率も、低下する傾向にあり、人口減少、少子高齢化は、避けられない状況と考えております。

また、本会議では、令和4年度の事業を検証いたしますが、資料を拝見しますと、新型コロナウイルス感染症の影響が、多岐にわたっております。

本日の会議の地方創生は、広い範囲となりますが、限られた時間の中で多くの意見を頂戴いただきたく、議事進行にご協力いただきますよう、よろしくお願いを申し上げます。

### **(3)「鎌ヶ谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略(改訂版)」に係る効果・検証について**

(菅野議長)

令和4年度事業に係る効果・検証について、事務局から説明をお願いします。

(事務局)

企画財政課長の浅野でございます。

それでは事前にご郵送させていただきました、資料2の、令和4年度事業に関する効果・検証をご用意ください。

2ページ、鎌ヶ谷市まち・ひと・しごと創生総合戦略は、3つの重点プロジェクトにより構成されてございます。

また、各重点プロジェクトには4つの重点施策を、具体的な取り組みとして設定しております。

3ページのグラフをご覧ください。『3本市の人口推計』でございますが、将来的には、減少傾向となり、令和27年時点では100,104人になると見込まれております。

『4要因別人口増減数の推移』でございますが、社会増減につきましては、平成28年以降は転入超過に転じております。

一方、自然増減につきましては、平成25年以降は、死亡数が出生数を上回っております。

4ページをご覧ください。

『5観光入込み客数の推移』でございますが、新型コロナウイルスの影響を受け、

観光入込み客数は大きく減少しましたが、近年は、回復傾向が見られます。

5 ページ以降は、状態指標、成果指標の進捗状況となっております。

7 ページ以降は、重点プロジェクトに紐づいた重点施策に関する令和4年度事業の実績について、まとめた資料となっております。

次に、事前に各委員の皆様からご質問等をいただいております、市の考え方を整理しましたので、本日配付資料で大変恐縮でございますが、追加資料1をご覧ください。

#### No.1 風水害に対してどのような対策を実施しているのか（吉田委員）

風水害対応については、ソフト面、ハード面の対策を行っているところです。ソフト面といたしましては、水害ハザードマップを作成し、令和4年度に市民の皆様へ全戸配布を行いました。これにより、水害の普及啓発に努めるとともに、また、水害時は土のうの配布などを行っております。

ハード面の対策でございますが、準用河川の整備、雨水貯留地や雨水浸透施設等の整備に取り組んでいるところでございます。

台風接近時など、状況に応じて災害対策本部などを設置し、対応に当たっているところでございます。本年の事例でございますが、6月の台風2号の際には、市長以下、約300名の職員が対応に当たっております。また、9月の台風13号の際には、情報収集などを中心に、災害対策本部の前の本部体制である災害警戒本部を設置し、約200名の職員が、対応に当たったところでございます。

#### No.2.3 自主防災組織の組織率が減少しているのは何故か（徳田副会長）

避難行動協力団体の令和4年度の数が21団体21自治会で、目標値に対して低いのは何故か（徳田副会長 根本委員）

自主防災組織が減少傾向にある理由でございますが、自主防災組織が十分周知されていないことが要因ではないかと考えております。

避難行動要支援者の避難行動支援でございますが、自治会に対し、避難支援の制度に関する説明会を開催し、協力をお願いして参りました。協力自治会数が大きく増加しない要因でございますが、一つは、新型コロナウイルス感染症の影響により、説明会などが実施できなかったことで、制度の理解や周知を図ることができなかったことが挙げられると考えております。

今後は、自治会向けの説明会を再開し、避難支援制度の周知と理解に取り組み、協力自治会の増加を図って参りたいと考えております。

#### No.4 法改正により避難行動要支援者名簿の作成が義務づけられた

市の取り組み状況について（竹内委員）

災害が発生した際、避難行動要支援者名簿を作成し、要支援者の同意をもとに、協力いただける自治会、民生委員児童委員、警察などと情報を共有し、災害時の安否確認などの支援体制の構築を進めているところでございます。

また、要支援者のうち、災害時に救護者や救急隊がわかりやすいように、様々のお名前などの基本情報のほか、お医者さんの情報ですとかそういったものを記入したものをですね、冷蔵庫に保管できる救急医療情報キットを配布しているところでございます。

こちらも、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして、自治会に対する説明会を中止せざるをえない状況が続いておりました。

今後は、自治会向けの説明会を再開させていただき、避難支援制度の周知と理解に取り組み、協力自治会の増加を図るとともに、支援体制のさらなる構築を進めて参りたいと考えています。

#### No.5 体育館や、市制記念公園が避難場所と使われるがトイレが問題になる マンホール型の非常用トイレは設置できないか（徳田副会長）

一部の避難場所には既存のトイレが備えてあり、マンホールトイレの設置は現在ない状況です。

しかし、市内の避難所のうち6か所については、マンホールトイレを設置してございまして、それ以外の避難場所についても、簡易トイレなどを備蓄しています。

#### No.6 プライバシーに行き届いたパーテーションなど備品は、どの程度あるのか また、その保管場所は鎌ヶ谷市内のどこにあるのか（竹内委員）

屋根が取り外しできますパーテーションについては、全体で664張り備蓄をしております。これとは別に、更衣室や授乳室を想定した屋根が一体となった、パーテーションも100張り備蓄をさせていただいており、いずれも市役所敷地内の備蓄倉庫で保管しております。

災害が発生した場合、これらのパーテーションを市内各避難所に速やかに搬送し、避難所の運営において、安全で安心な避難生活を支える設備として使用します。

#### No.7 井戸付き耐震性貯水槽の設置場所を地図で明記してはどうか（竹内委員）

追加資料2の鎌ヶ谷市ハザードマップをご覧ください。青い四角で真ん中に井のようなマークが、井戸付き耐震性貯水槽を表しています。例でお示ししますと、第四中学校や、中部小学校にマークがついております。また、左上の表一覧をご覧ください。

#### No.8 出火率は千葉県及び国と比較して高いのか、低いのか（菅野会長）

令和3年度中の数値で申し上げますと、千葉県は2.7件、国が2.8件に対して、鎌ヶ谷市は1.2件と、県や国と比較しても低い状況となっております。

#### No.9 非常備用消防自動車とは何か（菅野会長）

非常備用消防自動車とは、非常勤特別職であります消防団員が、災害活動などに使

用する消防ポンプ自動車であり、市内には第1分団から第8分団までの分団ごとに1台、合計8台配備しています。

**No.10 優先度の高い消火栓とは何か（菅野会長）**

優先度の高い消火栓とは、火災時に使用する確率の高い、太い管口径の消火栓や、付近に代替の消防水利が存在しない消火栓です。

**No.11 危険コンクリートブロック塀は、どのくらいあるのか（菅野会長）**

大阪で起きました北部地震を受け、通学路におけるブロック塀等の実態調査を市で行ったところ、通学路において138ヶ所の危険ブロック塀などを確認しており、このうち40か所については法令に適合する状態に改修及び撤去が進んでおり、現在の件数は98か所です。

**No.12 道路冠水をする箇所は年にどのくらいあるのか（根本委員）**

道路冠水は、その年の降雨状況により変化しますが、今年度は6月2日の集中豪雨で通行止めに伴う冠水箇所が4か所、9月の台風13号では2か所発生しました。

**No.13 合計特殊出生率を高めるための具体的な内容は何か（菅野会長）**

結婚、妊娠出産、子育て期までの家庭に対して、各段階に応じた支援を実施し、子育て環境の充実を図っています。

具体的な施策ですが、結婚後に鎌ヶ谷市へ転入した方に家賃等の助成、また、妊娠面接や乳児家庭全戸訪問事業、乳児健康相談などを実施しているほか、健康管理や子育て家庭への継続的な見守り、児童手当や、こども医療費助成など、子育て世帯に対する経済的な負担の軽減を図っております。

また、ひとり親家庭等への経済的な支援、特別な支援を必要とする家庭に対する相談体制の強化を図り、きめ細やかな支援を実施しております。

さらに、地域の子育て支援の拠点となる児童センターでは、子育て家庭同士の交流や相談を行う、つどいの広場を実施しております。

**No.14 現状の相談件数や相談内容に対し、家庭相談員に不足はないか（根本委員）**

令和4年度でございますが、前年度に比べ、相談件数が3,000件ほど増加しており、年間約1万9,000件となっております。

このうち、虐待に関する相談は、約4割を占めており、緊急的な対応などが必要な場合もあったことから、2名の家庭児童相談員について、フルタイム会計年度職員へと、勤務時間を延長するなどの対応を行いました。

今後も相談件数などに応じた必要な人員の確保に努め、また、職員の資質の向上を図って参りたいと考えております。

**No.15 放課後児童クラブに待機児童は発生しているか（根本委員）**

本市の放課後児童クラブは定員数 827 人に対し、令和 5 年 5 月 1 日現在で、児童数 925 人と、定員を 98 人超過しています。しかしながら、保護者の仕事がお休みの日や児童の習い事がある日は放課後児童クラブを利用しておらず、出席率は 7 割程度となっており、出席している児童がおおむね定員程度となっていることから、待機児童は発生していない状況です。

今後も、放課後児童クラブを利用する児童が増加傾向になると見込んでおりますが、小学校と連携し、放課後に、視聴覚室やプレイルームをお借りするなど、子供たちが安全に利用して楽しく過ごせる場の確保に努めて参りたいと考えています。

**No.16 教職員と保護者等それぞれの学校施設の満足度（菅野会長）**

令和 3 年度の満足度は教職員 64.9 パーセント、保護者等 77.7 パーセントです。

令和 4 年度の満足度は教職員 61.1 パーセント、保護者等 83.5 パーセントです。

**No.17 どのような方を対象にまち並みや景観の満足度を調査したのか（根本委員）**

都市計画マスタープラン策定時にオープンハウスと呼ばれる展示を兼ねた説明会を実施しました。期間は令和 4 年 8 月 16 日から 8 月 19 日までで、市役所 1 階で行いました。アンケートの手法は、来場された方の意向をなるべく幅広く把握するためパネルにシールを貼る形式としたため、回答者の年齢や性別、居住地との区分はしていない状況です。件数は、来場者が 203 名のうち、83 名の方から回答いただいた結果となっております。

**No.18 人口減を食い止めるため具体的にどのような対策をしているか（吉田委員）**

少子高齢化の進展により国全体が人口減少に向かうなかで、人口減少対策は、全ての市町村において重要なテーマとなっています。鎌ヶ谷市も例外ではなく、資料 2 の 2 ページに記載されている 3 つのプロジェクトを中心に取り組みを進めています。

人口の増減として、自然増減と社会増減の 2 つの視点があります。自然増減は平成 25 年度以降マイナスとなっていることから、様々な子育て施策を実施し、出生数の向上に努めています。また、社会増減に関しては、平成 28 年度以降、転入超過となっているものの、その増加数は減少傾向にあることから、転入者数の増加を目指す施策も必要であると認識しています。

令和 3 年度以降に新たに開始した主要な事業を申し上げますと、市外から転入する新婚世帯を対象に家賃補助を行う『結婚新生活支援事業』、子育て世帯の経済的負担を軽減する『多子世帯への保育料や給食費の減免』、『医療費助成の高校生等までの拡充』、『認定こども園の整備』のほか、雇用を守り創出を図る『創業支援事業』、『経営支援給付金』の実施、観光客の増加と定住を促進する『次期観光ビジョンの策定』『北海道日本ハムファイターズとの連携事業』『SNS 等による情報発信』に取り組んでおります。

(菅野議長)

ただいま事務局から、資料2に基づき、説明がありました。

これら資料につきまして、委員の皆様からご不明な点などがあつた場合は、事前に市へ提出することとなつており、委員の皆様からいただいた意見と、それに対する市の回答について、本日、追加資料としてお手元に配布しております。

ただいまの市からの説明を聞いて、事前に質問をされた竹内委員から、何かご質問等はございますか。

(竹内委員)

私から市に一つ要望がございます。

総務省消防庁では消防職員が年々増加しており、平成4年度4月1日付けの総務省消防庁では400人以上増えています。しかしながら、鎌ヶ谷市はここ何年か定員153名です。相当前の6か年計画の審議会の時も確か153名ですが、条例定数は154人です。

東葛地域を見ると、市川は18名増、柏が29名増、船橋は定員に到達してない。我孫子の職員数はほとんど条例定数のおりとなっているということです。

消防職員は普通の一般職とは異なり、市民の生命や財産を守る重要な役割を果たします。市民が安心して生活できるよう、災害の時には消防職員に頑張ってもらいますが、条例での定数154名に対し、153名の職員数で1名の欠員が続いています。

佐藤消防本部次長からはこのような要望を出すのは難しいとは思われますので、私の方から、防災、防火、消防に携わっている一員として、そして市民の代表として、採用ですから市の人事課で検討していただいて、ぜひ欠員のないように、154名体制でやっていただけたら大変ありがたいと思います。

(井上総務企画部参事)

人事室長の井上です。

定数条例は事実上の上限となつており、今は上限に満たない状況です。

消防から要望を聞いており、今、救急の職員数が少ないということで聞いておりますので、来年度に向けて増員で考えており、募集をかけているところです。

(根本委員)

本当に課題や色々な問題がある中、本当に日々の対応がすごく大変なところかと思ひまして本当にありがとうございます。

道路冠水について、私も子供の下校時刻にちょうど重なつた経験があります。部活動からの帰宅が困難となり、保護者が迎えに行く際に、ずいぶん道路が冠水してしまつて、ぎりぎり通れるか通れないかという状況がありました。鎌ヶ谷市内ではどれぐらいの箇所の冠水があるのかなと思ひ質問させていただきました。

登下校の時間を調整する等の対応があるかと思いますが、冠水などの危険な状況がだんだん解消されていくことが、子供たちの安全に繋がっていくと思います。これからどういう災害が起こるのか不安を募らせている市民の方も多いかと思いますので、すぐに対応できる部分とそうでない部分があるかと思いますが、改善できるといいなと思います。

家庭相談員の方の質問をさせていただきましたが、前年度に比べて相談件数が3000件ほど増加し、内容も虐待などかなり重い内容もあるかと思いますが、パートタイムの方をフルタイムに変更することで、対応が可能な状況に近づいたということでしょうか。

(今井健康福祉部副参事)

家庭児童相談員は、虐待の相談から不登校、経済的問題などいろいろ扱っています。近年、虐待の相談件数が増加傾向にあるため、年々体制を整備しています。パートタイム職員をフルタイムにするほか、正規職員も増加しているような状況です。

今年度においては、家庭児童相談員を週4日勤務から週5日勤務のフルタイムに変更し、毎日切れ目なく気軽に相談できる体制をとっており、きめ細かな対応を今図っているような状況でございます。今時点では、人員体制に問題は生じていない状況です。

(徳田副会長)

新指導要領では、今までの知識を教え込む一方的な教育方法から、アクティブ授業というのでしょうか、自分から研究するというような勉強方法に変わってきていると思うのですが、鎌ヶ谷市でも、そういった事業を取り入れられているところは、どのくらいあるのでしょうか。

(三石生涯学習部副参事)

ICT教育としてタブレットを1人1台導入しています。

アクティブラーニングとは少し方向が変わってしまうかもしれませんが、学校になかなか登校できない子供も、自宅で授業に参加できるなど、いろんな形での授業参加を可能にしています。

(徳田副会長)

いじめと、不登校の話が出ましたが、子どもたちが学校で悩み事を相談できるカウンセラーは、学校の中にどのくらい配置されていますか。

(三石生涯学習部副参事)

スクールカウンセラーは小学校全校に配置するとともに、第二中学校を拠点校として、これから更に充実を図ることとしております。

(井手委員)

私の担当は61ページ以降の商工業の振興及び観光施策の充実になろうかと思えます。商工業の発展、中小企業の経営強化、企業誘致の推進、雇用環境の整備、そして観光客のニーズの変化に対応した観光施策の推進について、非常によくまとめていただいています。

62ページでは、中小企業の助成や支援、利子補給を継続的に行っていただいております、これには非常に感謝しております。

63ページでは、プレミアム商品券に関する内容が記載されています。商工会が担当したこの商品券は、1万円を持参すると1万2,500円、つまり25パーセントのプレミアムがついた商品券を受け取ることができるというものです。これを3回実施し、1回は紙、2回がPayPayでの実施となっています。しかし、地域社会では、特に会話をしてくれるような中小企業、中小の商店ではPayPayを取り扱うことが難しい場合があります。鎌ヶ谷市さんの管理はやりやすいでしょうけども、高齢化社会においては、実際に1万2500円分の商品券を目の前で見ることができている方が、ご高齢の皆さん安心じゃないかなと思います。私も副市長にこの点を伝えており、中小の商店や高齢者のことも考えて温かく、細かく、ご配慮いただくことを希望しています。私は商工会の立場から、PayPayが良いとは言えないです。免許の返上などでの巡回バスの充実など、コストはかかるとは思いますが、それをサポートして差し上げることが非常に重要だと思います。

63ページの空き店舗の助成は、やりたい人に上限100万円を助成するものですが、商工振興課に何度も伝えているとおおり、これらの空き店舗は何らか原因があって空いており、次から入っても夜逃げするケースがあるし、何度も同じことを繰り返していて、この100万円が私はもったいないと思います。セルフレジの普及で、本当に人との会話が減少していると感じます。例えばクリーニング屋や、コンビニになれなかった商店など、いま頑張っている中小の商店への支援が必要と考えます。もっと違うところにお金を使っていた方が良いと思います。

64ページには、商工業の振興及び観光施策についての記載があります。先ほど会長の方から言われた人口増を目指し、定住者を増やすというところで、新鎌ヶ谷は成田や羽田、都内、船橋、津田沼、柏、松戸などの交通アクセスが良好です。武蔵小杉がすさまじいのは、交通が集中しそれを利用した形で住みやすく便利だというところがあるので、もっと鎌ヶ谷にはポテンシャルがあると思います。そこをしっかりと見据えた上で、計画していただければもっと商人たちも潤いますし、市民も、もっともっと楽で楽しい生活ができると思います。

65ページでは、企業誘致の推進と雇用環境の整備の内容が記載されています。企業誘致はより積極的に行うべきだと思いますが、適切な土地が不足している印象を受けます。印西市や白井市に比べれば、土地が狭くて、工場や配送センターなどの誘致は難しいかと思います。新鎌ヶ谷という地の利を利用したメリットを活かして、イン

テリジェントなシティということで新鎌ヶ谷の周りに工場ではなく本社機能、支社機能を持つビジネスエリアを作るなど、なかなかすぐに計画できることではありませんが、やっていただければ良いな考えます。

66 ページ、観光ビジョンに関して、私も商工振興課の観光ビジョンのメンバーとして参加しています。これまで、札幌市、鎌ヶ谷市、名護市、国頭町の4市町村で日本ハムファイターズを支援してきました。今回、人口6万の北広島市がエスコンフィールドを誘致し、地域間交流が始まっています。鎌ヶ谷商工会は、北広島の商工会や名護の商工会とずっと連携しておりますが、今年の7月に名護市は名護デーをやって試合をやっています。

全国で二軍の専用球場があるのは鎌ヶ谷だけという特徴があります。鎌ヶ谷スタジアムさんも鎌ヶ谷市に対して、このメリットを更に生かしてもっと活動的にやられたらいかがですかという不満もあると思います。

鎌ヶ谷には『鎌ヶ谷の梨』や北海道日本ハムファイターズの『鎌ヶ谷スタジアム』があります。農業観光もありますし、いろいろな、例えば貝柄山公園であったり、貝塚があったりさまざまな観光資源があります。これら観光資源を一つにまとめた観光協会的なものを設立してまとめていった方が、結果的には効果が得られるのではないかなというふうに考えております。

副市長さんと市長さんには、ご提案していますが、当然費用などの面ですぐには難しいとは思いますが、来年にはぜひ「鎌ヶ谷デー」のようなイベントを開催することで、市民も元気づきますし、鎌ヶ谷が生き残っていくためにはそれなりの先を見据えた活動が必要ではないかなというふうに考えていますのでぜひよろしくお願ひしたいと思います。

(浅野総務企画部次長)

日本ハムファイターズとの連携について、鎌ヶ谷デーの開催に向けて現在準備を進めています。会長が言われた通り、鎌ヶ谷市がもっともっと活性化していけるように、また新鎌ヶ谷周りに関しましては、北千葉道路を中心に今後まちづくりを進めていく、都市計画マスタープラン上の位置付けもございます。新鎌西側地区も含め、様々なまちづくりに取り組んで参りたいと思いますので、いただいたご意見を参考に今後とも努力してまいります。

(菅野会長)

井手委員、私から質問ですが、空いていることが条件で100万円を限度に補助するということですが、状況を教えてください。

(井手委員)

内装などに1,000万円かかると仮定すると、補助は上限の100万円がもらえます。市外業者はこの補助を活用していますが、商工会からは、「無駄ですから、もっと

違う使い方があるでしょう」と提案しています。

雇用を守り創出する『創業支援事業』『経営支援給付金』の実施と記載がありますが、もっともっと突き詰められることだと考えています。

(吉田委員)

現場としては、人口減は今後この町の活性化において非常に問題だと考えています。近隣の市町村も差別化を図るためいろいろな施策を展開しています。

鎌ケ谷として、市近隣の市町村にはない独自の取り組みについて、何か考えはありますか。

(浅野総務企画部次長)

先ほどご説明しました回答の中に、子育て世帯に関する充実という形で、鎌ケ谷市が子育てに良いまちという形を売り込もうということで、キャッチコピーとして、『やがて故郷に変わる街』とか、『育つまち鎌ケ谷』というキャッチコピーを入れて、子育て世代を呼び込もうという取組に力を入れています。

また、先ほどありましたとおり、鎌ケ谷市は非常にポテンシャルが高い交通の要衝でございますので、こういったことも、まちづくりの中で進めながら、人が住んでいただくという形をやっていきたいなと考えております。

(河南委員)

いろいろ計画がございますけども、その時々々の社会情勢や経済情勢によりまして、対応すべく計画も変わっていくと思います。鎌ケ谷市と県でしっかり連携をとりながら、取り組んでいきたいと考えております。

(菅野会長)

学校の施設満足度について、教職員と保護者を分けていただきました。

今後も、施設満足度について教職員と保護者を分けるのか。やっぱり一緒にした数字を出すのか。

(浅野総務企画部次長)

総合基本計画の中で、施設満足度としてこの数字を掲げており、目標値として捉えております。

ですので、分けて出すよりも、一緒にした形で出させていただいた方がわかりやすいかなと思っておりますが、ご質問があれば内訳の方はお答えをさせていただく用意はして行きたいと思っております。

(菅野会長)

教職員よりも保護者の満足度が高い。これはどういうことですか。

(三石生涯学習部副参事)

考えられるのは、このところ学校の改修事業がとても進んでおり、その中でも、トイレの洋式化が100%達成されるなど、学校環境の向上が保護者の目にとまっているという部分が要因ではないかなと考えております。

逆に教員の方は毎日現場におりますので、厳しい目で、少し低めに出ていると考えております。

(菅野会長)

他の市と比べて、この割合はどうですか。高い方ですか。

(三石生涯学習部副参事)

申し訳ございません。他市の状況については資料を持ち合わせておりません。

#### **(4) その他**

(菅野議長)

議題の3番はここまでといたしまして、議題の4番、その他に入りたいと思います。

委員の皆様から、地方創生や地域活性化などに関連したご意見などがございますでしょうか。

—特になし—

(菅野議長)

それでは、これをもちまして、議題は終わらせていただきたいと思います。

(狩谷総務企画部長)

本日は、お忙しい中、多くのご意見・ご提案をいただき、ありがとうございます。具体的な内容や、すぐに対応できるもの、そしてすぐには対応が難しいものもございました。

また、吉田委員からの『鎌ヶ谷市だけがやっていること』というご意見をうけ、鎌ヶ谷市独自の、他の市町村には見られない取組が大事だとあらためて思いました。

今日いただいたご意見は、今後の市の取組において様々な話し合いや、いろんな機会できちんと生かして、地域活性化等の推進に生かして参りたいと考えております。

現在、令和6年度予算編成が始まり、各部局が具体的な業務内容の精査を進めております。本日は各部の代表が参加しておりますので、本日のご意見・ご提案を生かして参りたいと思います。

本当にありがとうございました。

## 4 閉会

(菅野議長)

それでは、これをもって議事を終了し、本日の会議を終了いたします。

以上で会議は終了した。